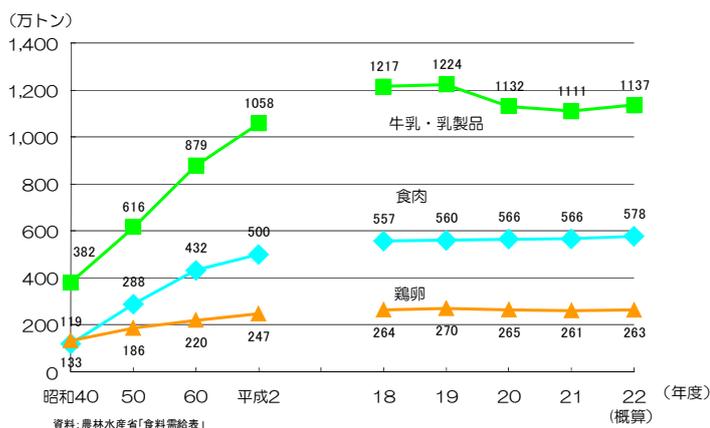


畜産物の需給動向

◆概況

22年度の畜産物の需要量は、牛・豚・鶏肉ともに前年を上回る

図1 畜産物の需要量



景気低迷による消費者の低価格志向により、22年度の畜産物の需要量(国内消費仕向量)は、牛・豚・鶏肉ともに輸入量が増加したことから、前年度を上回った。

畜種別では、牛肉は、輸入量の増加により前年度比0.7%増と2年連続で前年度を上回った。豚肉は、国内生産量の減少に伴い輸入量が増加したことから同1.5%増となった。食肉の中でも比較的安価な鶏肉は、同3.8%増と3年連続で上回った。

また、「食料・農業・農村基本計画」(22年3月閣議決定)においては、32年度における1人当たり年間消費目標として、生乳が89キログラム、牛肉5.8キログラム、豚肉12キログラム、鶏肉11キログラム、鶏卵17キログラムを見込んでいる。一方、22年度の1人当たり年間消費量(概算値)では、牛乳・乳製品が86.4キログラム(うち飲用31.8キログラム、乳製品54.5キログラム)、牛肉が5.9キログラム、豚肉が11.7キログラム、鶏肉が11.4キログラム、鶏卵が16.6キログラムとなった。

図2 畜産物の生産量



畜産物の生産量について見ると、牛肉は20年度に前年度を1.0%上回ったが、21年度は同0.4%減、22年度も同0.8%減と、国内で口蹄疫が発生したこともあり、それぞれ前年を下回って推移した。

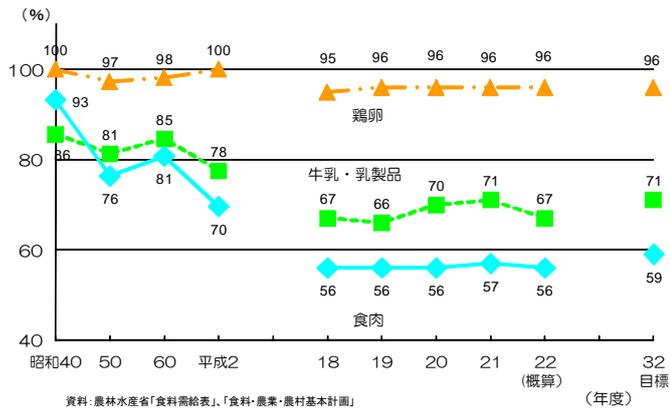
豚肉は衛生対策による事故率低減などから20年度に同1.1%上回り、21年度においても同4.6%上回った。22年度は、卸売価格の低迷や夏の暑熱などが影響し同3.2%下回った。

鶏肉は根強い国産志向に加え景気の低迷により安価な鶏肉への需要が高まったことから、20年度に同2.4%、21年度は同1.3%といずれも前年度を上回った。22年度も伸び率は鈍化したが、同0.3%増と上回った。

鶏卵の生産量は、20年度に前年度を2.0%下回り、21年度も同1.2%下回るなど、2年連続で低調に推移したが、22年度は高い卵価により生産意欲が上昇したことから同0.4%上回った。

牛乳・乳製品の生産量は、20年度は同1.0%、21年度も同0.8%下回った。22年度も暑熱の影響により同3.2%減となった。

図3 畜産物の自給率の推移



食肉の自給率は、20年度56%と18年度以降横ばい傾向で推移していたが、21年度は57%と1ポイント上昇、22年度は1ポイント下落した。

このうち牛肉は、20年度は44%と4年ぶりに前年度を上回ったが、21年度は43%、22年度は42%と年々下落している。

豚肉は、20年度は52%と3年連続52%台で推移していたが、国内生産量の増加により21年度は55%と3ポイントの上昇、22年度は生産量が減少したこともあり、2ポイント下がり53%となった。

鶏肉は近年60%台後半で推移していたが、20～21年度は在庫を多く抱え価格が低迷したことなどから消費が増加し70%と増加、22年度は国内生産量の減少に伴い輸入量が増えたことから、2ポイント減の68%となった。

牛乳・乳製品は、20年度は輸入量が大幅に減少したことから前年度を4ポイント上回る70%、21年度も1ポイント上昇の71%となったが、22年度は国内生産の低調から4ポイント減の67%となった。